





した。作業内容は、がれきの撤去や家屋片付け、田畑の草取りなど、夏場の暑い中や雨天時のこともあり、女子生徒には大変なことも多かったが、その分作業を終えたあとの達成感、他では得られないものがあつたようだ。被災地の窮状を目の当たりにし、その変わり果てた姿に驚き衝撃を受けた生徒も多かったが、同時に被災者支援の大切さを直に感じる事ができた。以下生徒の感想から一部引用させていただく。『……作業終了の時間が近づいてきたとき、私はその日はじめて被災地の方に「ありがとう」と言われました。直接お礼を言われるとは思ってもいなかったのでびっくりしましたが、驚きよりも嬉しさの方が何十倍も何百倍も大きかったです。この震災がもたらした被害の深刻さと、復興に向けて支えあっていくことの大切さを肌で感じた一日でした』そして、この支援活動は次年度以降も継続して行く。

生徒の感想から一部引用させていただく。『……作業終了の時間が近づいてきたとき、私はその日はじめて被災地の方に「ありがとう」と言われました。直接お礼を言われるとは思ってもいなかったのでびっくりしましたが、驚きよりも嬉しさの方が何十倍も何百倍も大きかったです。この震災がもたらした被害の深刻さと、復興に向けて支えあっていくことの大切さを肌で感じた一日でした』そして、この支援活動は次年度以降も継続して行く。

### PTA活動として

PTA総会において、本校PTA活動として被災された学校のために義援金を募ることが決められ、早速、総会後の学年PTAの場で多くの募金をお願いした。また各教室にも募金箱を置かせてもらい、義援金を募った。これらの募金については、県高P連を通じて被災した沿岸の加盟校に届けられた。

10月29日、PTAの呼びかけで保護者・生徒・教職員あわせて約70名が陸前高田市で行った支援活動では、全国から1千人を越すボランティアが訪れていた。現地にはまだ打ち上げられた岩やコンクリートがころがっており、堤防にはなぎ倒された木も残っていた。しかし、市内にはコンビニやスーパーが数軒ではあったが営業しており、生活基盤回復の兆しも目にする事ができた。

### 3. おわりに

本稿では、この一年の間で本校が被災支援に関わってきた活動を掲載させていただいた。それは、聞き伝えのことでなく、できるかぎり正確な事実によって記したい、という思いからであった。それゆえ被災された沿岸部各校の実状や頑張りをこの紙面でお伝えすることでできなかったことをお許しいただきたい。

被災地支援やボランティア活動については、県内各校でも多くの取り組みがあり支援の輪が広がり、絆が強まっている。そして全国各地から被災地への様々な形の支援をいただいていることに、勇気づけられ改めて元気をもらうことができたと感じている。

さらに全商協会にて検定試験料免除などの特別措置をしていただき、本当にありがたかった。また7月の神奈川県商業教育研究会の呼びかけによるイベント「高校生東北商店街」に、岩手から本校（ござえんちゃハウス）と被災した宮古商業高校、釜石商工高校が参加でき、多くの激励をいただいた。

支援活動を行った陸前高田市は、市街地のほぼ全域が津波により町並みを失った。市中心部にある県立高田高校も、校舎3階まで浸水し体育館は建物ごと流され、生徒22名が犠牲となった。同校には元同僚として本校で一緒に勤務した教諭もいた。同教諭は大津波が押し寄せてすぐ高台に避難していたが、避難場所になかった水泳部員の生徒を探しに行き、帰らぬ人となってしまった。何度思い返してもやるせない悔しさだけがこみ上げてくる。

今回の様々な支援活動を行うなかで、普段では見せない生徒達の献身的なひたむきさや逞しい姿に驚き感動した。そして地元住民の感謝の言葉は、生徒達の心に確実に強く響いていた。沿岸部の生徒達も、自分達の手で地元を復活させたいという思いが強いに違いない。商業教育では、これまで様々な形で地域に密着した取り組みを実践してきている。それは地域を担う人材を育てることに必ず繋がる。これからの地域復興の中でさらに自分達に何ができるのか、生徒達と思いを一つにして考えていきたいと思っている。